

令和 8 年度第 1 回予防行政のあり方に関する検討会 議事要旨

1 日時

令和 8 年 7 月 2 日（木）15 時 30 分から 17 時 30 分まで

2 場所

ビジョンセンター虎ノ門 溜池山王 6 階 601 会議室
東京都港区赤坂 1 - 1 - 12 明産溜池ビル

3 出席者

(1) 委員

松山委員長、木作委員、中川委員、細川委員、松島委員、水野委員、吉田委員、板倉委員、市橋委員、河村委員、流委員、西藤委員、安東委員、伊勢村委員、田村委員

(2) オブザーバー

高木オブザーバー、内藤オブザーバー

(3) 事務局（消防庁）

鳥井審議官、渡辺予防課長、明田設備専門官、服部課長補佐、関違反処理対策官、川合国際規格対策官、谷川係長、渡邊係長、加藤係長、山本係長

4 配付資料

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 資料 1 | 令和 8 年度 予防行政のあり方に関する検討会における主な検討事項 |
| 資料 2 | データセンター等における消火設備等のあり方に関する検討について |
| 資料 3 | 消防用設備等の点検業務のデジタル化の取組等に関する検討について |
| 資料 4 | 厨房設備等の基準に関する検討について |
| 資料 5 | 高度・専門的業務における広域連携等に関する検討について |
| 参考資料 1 | 予防行政におけるデジタル化の取組状況について |
| 参考資料 2 | 予防行政のあり方に関する検討会開催要綱 |
| 参考資料 3 | 令和 8 年度 予防行政のあり方に関する検討会構成員名簿 |

5 議事

- (1) データセンター等における消火設備等のあり方に関する検討
- (2) 消防用設備等の点検業務のデジタル化の取組等に関する検討
- (3) 厨房設備等の基準に関する検討
- (4) 高度・専門的業務における広域連携等に関する検討
- (5) 予防行政におけるデジタル化の取組状況について

6 主な意見交換の内容（○:委員、●:事務局）

(1) データセンター等における消火設備等のあり方に関する検討

○次世代A I データセンターでは水系消火設備のニーズがあるとのことだが、なぜか。

●詳細については、今後、関係事業者にヒアリングする必要があるが、次世代A I データセンターでは、サーバーを安定的に稼働させる必要があるため、サーバーラック内に出力の高いリチウムイオン電池を格納することが想定されとのこと。リチウムイオン電池を起因とした火災では、一般的に、冷却消火が効果的であると言われており、そのため、冷却効果が比較的高い水系消火設備を設置させてほしい旨の要望を関係事業者から受けているところ。

○水系消火設備の場合は水損が大きい、なぜ窒息消火ではいけないのか。

●関係事業者は、水損のリスクを考慮しても、リチウムイオン電池の燃焼を的確に抑えたいという考えであると認識している。そのため、水損によるデータ損失を最小限に抑える運用を考えているとのこと。

○水がかかった場合、リチウムイオン電池等がショートし、火災が拡大することが危惧される。

●2次被害の危険性も含めて検討していく必要があると考えている。

○規制改革推進に関する答申では、「水消火設備の設置が可能となるよう」とされている。安全性や有効性などを十分検討した上で、水系消火設備の設置の可否を検討すべきだと考えるが、この検討は、水系消火設備の設置を前提とした検討になるのか。

●安全性や有効性などを十分検討した上で、水系消火設備の設置の可否について結論を得る必要があると考えている。その結論を踏まえて、水系消火設備が設置できるような法令改正を検討していく。

○次世代A I データセンターに限った検討なのか。あるいは一般のデータセンターも含めての検討になるのか。

●一般のデータセンターについては、水系消火設備を設置したいというニーズがあるかを把握したうえで、検討対象について判断する必要がある。

○リチウムイオン電池をある程度蓄積しているような施設で、ガス系消火設備が有効という事例や実験結果はあるのか。

●過去に、ガス系消火設備でリチウムイオン電池を消火した実験の事例があるが、消火効果はリチウムイオン電池の量に依存する。そのため、次世代A I データセンターにおけるガス系消火設備の有効性も踏まえて検討する必要があると考えている。

○例えば高圧のミストであれば、水系消火設備であっても部分的に窒息効果があると考えられるので、そういった観点でも検討していただきたい。

●どのような消火設備があるかも含めて確認する。

○データセンターでは、火災時に空調等を停止するのか。停止すると、発熱等のリスクがあるため、消火とのバランスを考慮する必要がある。この点については、部会で議論していきたい。

○次世代A I データセンターは、「今後設置が進むと見込まれる」と資料に記載されているが、既に存在しているのか。また、存在しているとしたら、現状はガス系消火設備が設置されているという理解でよいのか。

●次世代A I データセンターの定義が厳格にあるわけではない。また、関係事業者からは、次世代の新しいタイプのデータセンターを今後設置するに当たり、水系消火設備を設置したいという趣旨の要望が挙げられていると理解している。

(2) 消防用設備等の点検業務のデジタル化の取組等に関する検討

○検討する際、機材の技術的な検討のみを行うのか。あるいは、昼夜間、どのような場所でするか、天井高がどれくらいかなど、使用環境も検討範囲とするのか。

●御指摘のとおり、周囲の環境、照明などの状況にもよるため、通信環境だけではなく、使用環境という点も考慮し、検討範囲を整理する。

○資料4 ページ目に「現場で補助作業を行う者に求めるスキル等は何か」とあるが、点検事業者社員とするのか、無資格のアルバイトでも支障ないのかなど、具体的な想定はあるか。

●検討すべき条件の1つであると考えている。現場で補助作業を行う者に係る要件について、検討部会で整理していきたい。

○スマホアプリのようなものをうまく使うイメージを持ったが、例えば防火管理者がカメラ等を活用することも想定できる。

●そのような運用も含めて検討していく。

○資料に「リアルタイムで送信」と記載があるが、リアルタイムに限定するのか。あるいは静止画も含むのか。

●リアルタイムで遠隔点検を行う場合、有資格者から現場の状況に即したアドバイスを受けることができるため、現場で補助作業を行う者による点検の実行性が高いと考えている。そのため、まずは、カメラ等によるリアルタイムの動画撮影を念頭においた点検手法について検討するが、静止画を用いた点検手法についても選択肢の1つとして考えられる。

○資料2 ページ目に、「性能基準が明らかにされないまま、国の認定を受けたものに限られており」とあるが、現状、性能について基準はないのか。

●現行の技術カタログに関しては、個別製品ごとに掲載をしているが、国家戦略特区における福岡市からの要望は、「カメラ等に求められる性能を明らかにしたうえで、その性能を満たしていればどのような製品でも使用可能となるように運用を改善してほしい。」という趣旨であるため、今年度の検討で、カメラ等の要求水準等を明らかにし、それを満たしていればどのような機材でもリモートでの点検に使用できるよう、今後整理していく。

○リモートのみで可能な点検と、現地で人の手が必要となる点検がある。最終的には、責任を取るのは防火管理者や点検をする方なので、適用条件を整理しておく必要があ

る。

- 御指摘のとおり、目視による点検もあれば、操作を伴う点検もある。要望として受けているものは、目視の代替となるカメラ等を用いた点検手法に関するものであるため、当面は、目視による点検について検討するが、どこまで拡大できるかは併せて整理していきたい。

(3) 厨房設備等の基準に関する検討

○この議題は、部会で議論されることになるが、どの部分に引っかかっているかを明確にしておくべきである。資料4 ページ目に「不燃材料で造る」とあり、循環フードの除臭部に可燃物が入っていることが引っかかっていると認識しているが、具体的にこれをどうクリアしていくのか、何を検証していくのかが、若干分かりにくいところがあるので、そこも含めて整理をしていただき、最終的に実験を行う際には反映していただきたい。結局、加熱実験を行う場合、どういう火源を想定するのが重要であるため、前提条件の整理が必要となる。

- いただいた御意見も踏まえて実験の内容などを整理していく。少し補足をする、循環フードについては御指摘のとおり、除臭部の中に電気配線などがあるので、そういった部分が現行の条例（例）に引っかかると考えている。実験の中ではこうした部分についても、延焼危険の有無等を検証したいと考えている。

○資料1 ページ目「新たな形態の天蓋（イメージ）」のイラストでは3つ機器が並んでいる。中央のものはフードというイメージかと思うが、その左右にある、例えばフレイヤーのようなものに付置されているものについても、天蓋という認識で捉えていくのか。このような形態というのは、例えばホテルの宴会場のようなどころで使用されている例があると思う。厨房以外の場所や、移動式の厨房機器についても、今回の検討範囲となるのか。

- 今回の検討範囲としては、基本的には、「新たな形態の天蓋（イメージ）」のイラスト中央のように、厨房設備もフード自体も動かないような形になっているものをまずは想定しているが、移動可能なものや、火気器具の近くに設置をされるものについても、並行して整理を進めていきたい。

○行政実例として、私どものほうで聞いている内容では、必ずしもそういったものには、例えば火炎伝送防止装置がフルスペックで付いているわけではないと認識している。今後、整理した情報を共有いただけると、現場としては大変ありがたい。

(4) 高度・専門的業務における広域連携等に関する検討

○大規模消防本部としても、特に違反是正の部分については課題が大きいということで、今回の整理、また、標準的な目安については大いに期待をしている。その中で、資料4 ページ目に、「違反が是正されるまでの期間について」という項目があるが、実は、この違反の処理については、行政側が行うプロセスの部分と、それから実際に

是正されるまでの関係者側の諸事情はかなり幅があるものと認識している。目安を整理する際には、必ずしもゴールのところだけではなく、例えば行政措置、行政処分を行うといったところ、また、違反処理に着手するタイミングという形で、細かく見ていただくのが良いと思うが、その点についてはどうか。

●今回、様々な検討を行った上で指標を示すことを考えているが、各消防本部のやり方があるため、実情を聞きながら、ある程度幅を持たせた指針・指標を示したいと考えている。

○実際の立入検査は、消防本部ごとにやり方が違う。問題は、違反処理の法令に基づく命令を一旦出すと、その後、従わなかった場合に、行政代執行、刑罰、訴訟、不服審査等へ移行する可能性がある。小規模な消防本部では、そこまでの準備ができていないこともあるので、行政指導とどうやって組み合わせているかという実態がもう少し分かれば良いと思う。検討の際には、その実態も考慮していただきたい。

○代執行に関しては、消防だけではなく、市町村自体で代執行そのものをあまりしていない自治体があるので、そういった中で消防が代執行に踏み切るのはハードルが高い。市町村自体の経験にもかなり左右されると考えられるので、消防本部にも確認していただきたい。

○資料4 ページ目に、「立入検査・違反是正の実効性の向上」の2つ目の矢印に「立入検査以外の効果的・効率的な実態把握の方法」とあるが、立入検査以外の方法というのは、具体的にどういったものを想定しているのか。

●立入検査以外にも、有効に安全性を確保できるやり方はあると考え、ここに記載した。例えば防火対象物使用開始届や、点検報告が出されていれば実態把握の際に参考となる。また、関係部局と情報共有すれば、例えばテナントが替わったという情報を把握することができる。インターネット検索についても、建物の情報がインターネットに掲載されていれば、テナントの入れ替わり、建物の取り壊し等を把握することができる場合がある。それらを活用しながら、最終的に管内の建物を何年かかけて一巡して実態把握し、必要なものには指導、立入検査を行うということで安全性を確保していくことができると考えている。

(5) 予防行政におけるデジタル化の取組状況について

○資料2 ページ目に、電子申請等の導入状況の表があり、令和7年4月から令和8年4月までの1年間で10%ほど増加している。令和7年時点では、「年度中に導入予定」はそれほど多くなかったが、「導入検討中」であった消防本部が導入に踏み切ったということか。また、令和8年4月時点で「年度中に導入予定」や「導入検討中」がそれなりにあるが、今年度も大幅に増える可能性があるか。今後、導入率100%を目指していくのか。

●「年度中に導入予定」とされている消防本部以外でも、年度内の検討状況によっては今年度中に導入いただけるケースがあると考えている。また、もちろん1つでも多く

の消防本部において導入を進めていただくというのが、私どもの目標であるため、引き続き努力していく。

○「国家資格等情報連携・活用システムの活用」については、活用は容易か。それとも実際に使う上で制約、大変なところ、難しいところはあるのか。

●現状、消防試験研究センターで、消防設備士の免状事務を行っているため、「国家資格等情報連携・活用システム」を活用するに当たっては、消防試験研究センターの既存のシステムと連携する必要があることから、一定の作業は生じるものと考えている。一般的なシステムの連携であるため、しっかりと取り組んでいけば対応可能と考えている。

○全体を通じて、「立入検査以外の効果的・効率的な実態把握の方法」や、「消防用設備等の点検業務のデジタル化」という話題があった。人手不足、リソースの問題等、様々な事情は理解しているが、実効性の維持向上は重要であるため、安易にデジタル化という簡便な手法に流れていかないことを消費者としては望むところ。様々な会議に出席していると、デジタル化、人が直接行かない、人手によらない等の手法が挙げられる。もちろんあらゆる意味で実効性があれば良いが、その目的が重要。人手不足を理由に、人手を使わない手法に流れていくと、結局、安全性は維持できるのか、向上させることができるのかという疑問が生じるので、その辺り、意見を言っておきたい。

●御指摘のとおり、安全性の維持・向上を軽視することなく検討していく。

以上